

音戸高校新聞

広島県立音戸高等学校

〒737-1204

広島県呉市音戸町北隠渡1丁目1-1

TEL (0823) 51-2235

FAX (0823) 51-2237

<https://www.ondo-h.hiroshima-c.ed.jp>

E-mail ondo-h@hiroshima-c.ed.jp

令和5年1月18日(水) オールクレ・クレコレバイヤーズ商談会(クレイトンベイホテル)

今年度も、呉広域商工会主催の伴走型小規模事業者支援推進事業【オールクレ・クレコレバイヤーズ商談会】が開催され、昨年度に引き続き本校生徒が「総合的な探究の時間」で開発した商品7点の内、商品化された4点について、事業者の方にプレゼンテーションさせていただきました。



3年生は

- ☆ 音戸クッキー
- ☆ 音戸レザー (仮称)



2年生は

- ☆ 呉レモンパン
- ☆ 音戸高校制服リメイクトートバック



呉市長の新聞様が
訪問してくださいました



中国新聞社の取材を受けました



参加した生徒たち(前列真ん中2名が2年生)



当日会場に行かなかった生徒たちは、オンラインで配信されたプレゼンの様子を教室で見守りました

1月25日(水)「総合的な探究の時間」成果発表会(視聴覚教室・HR教室)

この日、ご来賓として、1年間生徒たちのために関わっていただいた公益財団法人くれ産業振興センターアドバイザーの田中耕三様、同じく常務理事の藤井法夫様、同じく事務局員の中田恭平様、本校同窓会長の相川敏郎様をお招きして、今年度1年間「総合的な探究の時間」の中で取り組んできたことの成果発表会を行いました。



相川様

藤井様

田中様

中田様



2・3年生は視聴覚教室



1年生は、HR教室でオンライン
(発表時は視聴覚教室へ)



2・3年生は、商品開発に至るまで、試行錯誤を重ねたことやアドバイザーからの提案内容、また、18日に行われた「オールクレ・クレコレバイヤーズ商談会」で企業からアドバイスされたことについても発表しました。



1年生は、音戸町の特産品である「牡蠣」「ちりめん」について会社訪問などをして、探究を深め、各班でまとめたものを発表しました。



音戸町魅力化推進協議会主催の「ラッピングポスト」のデザインを考え、発表しました



広島テレビの取材を受け、
夕方の番組で取り上げて
いただきました

1月30日(月)「音戸町ラッピングポスト」除幕式(おんど観光文化会館うずしお)



正面



正面向かって左側



正面向かって右側



背面

令和4年度 音戸高等学校1年生製作

1年生が「総合的な探究の時間」で取り組んできた「ラッピングポスト」の除幕式がこの日行われ、1年生を代表して、長尾希輝さんと横山悠太くんが参加しました。(呉市内で2本目)



呉市長の新原様をはじめ、たくさんのご来賓が参列され、ラッピングポストのテープカットが行われてお披露目となりました



呉市長の新原様へ第1号の投函



長尾くん 横山くん

生徒を代表して長尾くんは、「クラスのみんなで考え、郵便局の方からのアドバイスもいただき、色々な人の案が詰まったポストになりました。」と挨拶しました。

また、後日この日の感想を聞くと「僕たちなりに、ポストデザインに対する思いやメッセージ、工夫など、伝えることができたと思う。除幕式では緊張してスピーチが少し詰まってしまいました。今回のような会場で人前に出るのは初めてだったのでいい経験になりました。」と答えてくれました。



中国新聞社・読売新聞社・くれえぱんの取材を受けました

ポストデザインについては、「テーマの『牡蠣』は大きく目立つように！そして色の配色は、上部は「山の緑」下部は「海の青」、絵や文字(目立たせるために独特な形)には、音戸に来てほしい。牡蠣を食べてほしい。というメッセージを込めました。(青字は横山くんの案)



写真向かって左側から末田先生・田中先生(アドバイザー)・坂根校長・長尾くん・横山くん



風光明媚な場所に設置されました

中道には懐かしいポストもあります



御挨拶

—「音戸高校新聞」創刊200号に寄せて—

平成16(2004)年2月27日に「音戸高校便り」として創刊号を発刊し、平成17(2005)年度からは「音戸高校新聞」に名称を変更しました。創刊号から11年目の平成27(2015)年3月20日号をもちまして「第100号」を数え、そして令和5(2023)年2月27日号をもちまして、「第200号」を発刊することができました。創刊号発刊から19年目です。

私たちは、この新聞を「音高新聞」と親しみを込めて呼んでいます。「音高新聞」は音戸高校で頑張っている生徒の学びの姿を、保護者、地域の方々に広く知っていただくことのできる新聞です。この新聞の200号までの歴史は、音戸高校の歴史そのものだといえます。これからも、多くの人たちに音戸高校を知ってもらうために、「音高新聞」の益々の充実に尽力していきたいと思います。

広島県立音戸高等学校 校長 坂根保廣

